

人間総合学群 心理学類 / 人文科学研究科 臨床心理学専攻							
氏名	綾城 初穂	職名	准教授	専攻分野	臨床心理学	学位名	博士 (教育学)
主要業績 (著書・研究論文併せて5点以内)							
<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「二つの位置づけから考えるナラティブ・セラピー」『ナラティブ・セラピーのダイアログ：他者と紡ぐ治療的会話，その<言語>を求めて』北大路書房、2020年 (共著) ・ 『協働するカウンセリングと心理療法——文化とナラティブをめぐる臨床実践テキスト——』新曜社、2021年 (共監訳) <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ What does a diagnosis of Asperger's syndrome mean to a school-aged Japanese client? A case study illustrating the use of positioning theory. <i>Wisdom in Education</i>, 8(1), 2018. (単著) ・ ディスコースの視点から見た親面接の理解と意義 <i>心理臨床学研究</i>, 37(1). 2019. (単著) ・ A case study of a consultation using the two-circles method with a junior-high school teacher. <i>Japanese Psychological Research</i>, 63(4), 2021年 (単著) 							
最近5年間の業績 (2018年度～2022年度)							
<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析——SAGE 質的研究キット7』新曜社、2018年 (共訳) ・ 「辞典項目の執筆 (宗教・心理的健康・発話行為・ハレ (Rom Harré)・ポジショニング論)」『質的心理学辞典』新曜社、2018年 (共著) ・ 「学校コミュニティを通じた問題解決の学びと支援」『生涯発達心理学』ナカニシヤ出版、2019年 (共著) ・ 「二つの位置づけから考えるナラティブ・セラピー」『ナラティブ・セラピーのダイアログ：他者と紡ぐ治療的会話，その<言語>を求めて』北大路書房、2020年 (共著) ・ 「宗教と幸福」『幸せになるための心理学ワークブック——実践的に心理学を学ぶ』ナカニシヤ出版、2021年 (共著) ・ 『協働するカウンセリングと心理療法——文化とナラティブをめぐる臨床実践テキスト——』新曜社、2021年 (共監訳) ・ 『専門職としての教師の資本——21世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』金子書房、2022年 (共訳) ・ 「クライアントのポジショニングと“極太ペン”としての診断——アスペルガー障害をめぐるやりとりについてのディスコース分析」『ソーシャル・コンストラクショニズムと対人支援の心理学——理論・研究・実践のために——』新曜社、2022年 (共著) <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「投影法から見るレジリエンスの多様性—回復への志向性という観点」『質的心理学研究』、第17 							

卷、2018年（共著）

- What does a diagnosis of Asperger's syndrome mean to a school-aged Japanese client? A case study illustrating the use of positioning theory. *Wisdom in Education*, **8**(1), 2018. (単著)
- 「「学びと発達」の支援としてのカウンセリング—ポジショニング理論による事例研究—」『教師教育研究』第11巻、2018年（単著）
- 「ナラティブからみた日本の幸福感——パークのペンタドに基づく自由記述の構造分析」『駒沢学園心理相談センター紀要』第15巻、2019年（共著）
- 「ディスコースの視点から見た親面接の理解と意義」『心理臨床学研究』第37巻、2019年（単著）
- 「ナラティブ解釈におけるポジションという視点の意義と可能性——臨床心理学領域での活用に焦点を当てて」『N：ナラティブとケア』第11巻、2020年（単著）
- 「子どもの攻撃性にかかわるか——ポジショニング理論によるプレイセラピーの検討」『駒沢学園心理相談センター紀要』第17巻、2021年（単著）
- A case study of a consultation using the two-circles method with a junior-high school teacher. *Japanese Psychological Research*, **63**(4), 2021年（単著）
- 「大学生による学校支援ボランティアにおいて児童生徒に肯定的な変化が見られた事例の特徴」『教育心理学研究』第9巻（2）、2021年（共著）
- 「修復的実践としての生徒指導——修復的対話という視点から」『質的心理学研究』第20巻(Special号)、2021年（単著）
- 「ナラティブ・セラピーを用いた保護者支援——2円法による学校場面での連携事例」『N：ナラティブとケア』第14巻、2023年（単著）

【学会発表】

- Contribution of "Family" to Japanese People's Concept of Happiness: Discourse Analysis of Texts about Happiness. *Poster presented at 9th European Conference on Positive Psychology in Budapest, Hungary (ECP 2018)*, 2018. (共著)
- Components of Happiness for Middle-Aged Japanese. *Poster presented at 9th European Conference on Positive Psychology in Budapest, Hungary (ECP 2018)*, 2018. (共著)
- Three concepts about the happiness of Japanese people: "Unhappless," that is, without hapless. *Poster presented at 9th European Conference on Positive Psychology in Budapest, Hungary (ECP 2018)*, 2018. (共著)
- 「「不幸でない」ことは幸せか—非-不幸感 (unhapless) に関する探索的検討」『日本心理学会第82回大会発表論文集』、2018年（共著）
- 「写真に表現されたレジリエンスの主観性と文脈性—回復の統制可能性を読み取る—」『日本質的心理学学会第15回大会発表論文集』、2018年（共著）
- 「非不幸感尺度 (Unhapless Scale) 作成の試み—主観的幸福感尺度に反映されない日本の不幸観—」『日本パーソナリティ心理学学会第27回大会発表論文集』、2018年（共著）

- ・ 「日本人の幸福の「語り方」に関する検討」『日本質的心理学会第 15 回大会発表論文集』、2018 年（共著）
- ・ A Study of the Relationship between Change in Positive Emotion and Personal Characteristics. Poster presented at the 16th European Congress of Psychology, 2019,（共著）
- ・ 「生徒-教師間の関係性に焦点を当てたコンサルテーション事例の検討—外在化を用いたアプローチの有用性と課題—」『日本心理学会第 83 回大会発表論文集』、2019 年（単著）
- ・ 「ナラティブ・アプローチに基づく秘密いじめ対策隊の実践—日本初の試みからみえる可能性と課題—」『日本教育心理学会第 61 回総会発表論文集』、2019 年（単著）
- ・ 「社会構成主義に基づく保護者支援の実践事例の検討—外在化と多声性を用いた保護者と学校との連携—」『日本質的心理学会第 16 回大会発表論文集』、2019 年（単著）
- ・ 「文章完成法に投影されるレジリエンスの検討」『日本質的心理学会第 16 回大会発表論文集』、2019 年（共著）
- ・ 「保護者をめぐる「親」ディスコースの諸相——ミックスメソッドによる臨床心理学的検討——」『日本心理学会第 84 回大会(デジタルポスター)』、2020 年（共著）
- ・ 「子どもを語るディスコースはいかに変化するか——ポジショニング理論に基づく保護者支援過程の検討——」『日本心理学会第 85 回大会(デジタルポスター)』、2021 年（単著）
- ・ 「パーソナリティはコロナ禍の人生満足度にどう影響するか——ビッグファイブによる交差遅延効果モデルの比較検討——」『日本パーソナリティ心理学会第 30 回総会発表論文集』、2021 年（共著）
- ・ 「パートナー間の対話促進のための箱庭の可能性」『日本心理臨床学会第 41 回大会自主シンポジウム』、2022 年（共著）
- ・ 「ナラティブセラピーに基づいた教員へのコンサルテーション事例の検討——オンライン会議によるアプローチの有用性と課題」『日本心理学会第 84 回大会』、2022 年（単著）

【その他】

- ・ 「「宗教」の語りを通してみる宗教心理の可能性」『宗教心理学研究会ニューズレター』第 28 号、2018 年（単著）
- ・ 「対談『中動態と外在化する会話』をめぐって」『えぬぱっく小誌』第 2 号、2021 年（共著）